

STEFANO JEFF BLUES

2026



Into Trouble

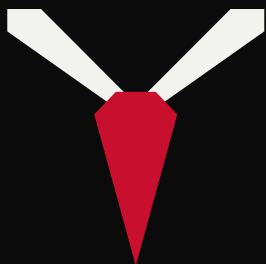


9曲・九つの断片からなる一夜

静かに過ぎていく夜もあれば、気づかないうちにどこかへ連れていく夜もある。Into Trouble はそんな夜に生まれた。

はっきりした行き先もなく、筋書きもない。あるのは、少しずつ人が消えていく街、閉めるべき時間を過ぎても開いている店、歩道に響くくすんだ足音、そして必要以上に長く居残ってしまったという感覚だ。

どの曲もその道程の断片を語る。ちらりと見えた顔、忘れられた会話、小声で交わされた約束、そして世界の他のすべてが眠っているときにだけ浮かび上がる思い。



ここでのブルースは音楽のジャンルではない。夜が自らの物語を語る、その語り方だ。

01	5 AM BLUES AT THE BLUE NOTE	3:21
02	BACKROOM PIANO BOOGIE	2:38
03	BLUE CORNER WALTZ	3:07
04	BOOGIE WITH RESTRAINT	3:05
05	DOORWAY PRELUDE (6:01 AM)	3:07
06	LAST CALL CODA (TURNAROUND REPRISE)	3:10
07	MINOR SMOKE (BACKROOM BLUES)	3:13
08	OLD BRICK SHUFFLE	3:05
09	STOP-TIME POSTCARD	3:48

総収録時間 28:34

01

5 AM BLUES AT THE BLUE NOTE

朝の五時、店はほとんど空っぽだ。カウンターに残るのは数個のグラスと、終わることを拒みつづける旋律だけ。外では夜が明けていくのに、店の中では時間がもう数分だけ止まっているように見える。

02

BACKROOM PIANO BOOGIE

メインフロアの奥には、規則があまり意味を持たない部屋がある。ピアノが速度を上げ、誰かが笑い、誰かが賭けに負ける。夜が慎重であることをやめ、厄介ごとを探しはじめる瞬間だ。

03

BLUE CORNER WALTZ

騒がしさから離れた奥の隅で、誰かが黙ってフロアを眺めている。明かりは空のグラスに映り、ほんの一瞬、すべてが古いワルツのような優雅な遅さで動いているように見える。

04

BOOGIE WITH RESTRAINT

熱気は空気の中にあるが、それを誰も証明しようとはしない。道を知っていて、着くことを急がない者たちのブルースだ。足取りはどれも確かで、どの笑みも口には出されない何かを語っている。

05

DOORWAY PRELUDE (6:01 AM)

扉が開き、一筋の光が床を横切る。夜が自分の終わりに気づくのは、このときが初めてだ。遅すぎる時間に入ってくる者もいれば、最後の音楽の断片を持って出ていく者もいる。

06

LAST CALL CODA (TURNAROUND REPRISE)

ラストオーダーはいつも、望むよりも早くやってくる。ウェイターがカウンターを片づけ、椅子はテーブルの上に戻され、夜の物語は少しずつ空気の中へ溶けはじめる。

07

MINOR SMOKE (BACKROOM BLUES)

煙は、消しにくい記憶のように空中に留まっている。奥の部屋に残るのは影と沈黙だけだ。終わる会話もあれば、記憶の中で生き続ける会話もある。

08

OLD BRICK SHUFFLE

外では、古いレンガの建物がすべてを黙って見ている。通りには、先に通り過ぎた者たちの跡が残っている。リズムは、忘れられることを拒む物語のように路地を歩きつづける。

09

STOP-TIME POSTCARD

夜は不意の写真へと砕けていく。閉まる扉、走り出すタクシー、長く留めすぎた視線。ほかのすべてが消えたあとにも生き残る、宙づりの小さな瞬間。

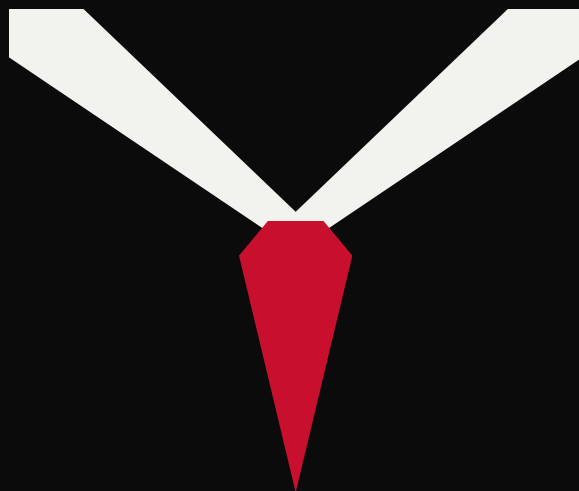
太陽がネオンの看板の場所をすっかり奪ってしまふと、街は何事もなかったかのように一日を始め直す。

けれどどこかで、宙に残された一音と、説明しにくい記憶とのあいだで、夜は存在しつづけている。

厄介ごととは、おそらくこれだけのことだ。深く考えずに入り込んだ道、開けたままにされた扉、最後の一音まで聴いた一曲。

そして時には、それを追いかける価値がある。

**THE NIGHT IS OVER.
THE BLUES REMAINS.**



STEFANO JEFF BLUES

INTO TROUBLE

9曲・ブルース

総収録時間 28:34

録音・ミックス — Stefano Jeff Blues

写真・アートワーク — Stefano Jeff Blues

